

日本

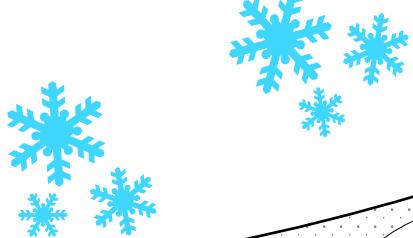
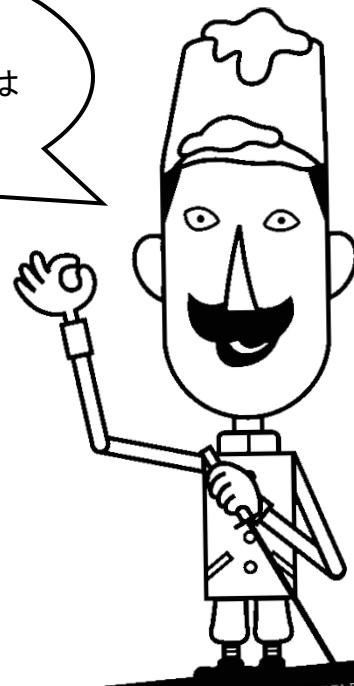
スキ

はっしょう
発祥の

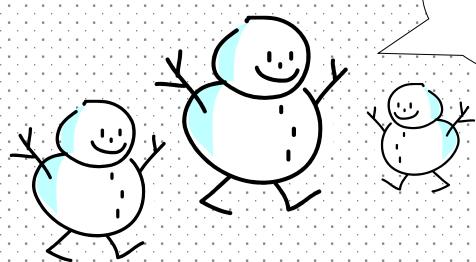
はなし

1月12日（月）の「スキーの日」と
2月7日（土）・8日（日）の「レルヒ祭」は
入館料が無料になるよ！

レルヒ少佐が伝えた「一本杖スキー術」
と「日本スキー関係資料」は、2021年に
上越市の文化財に指定されました。

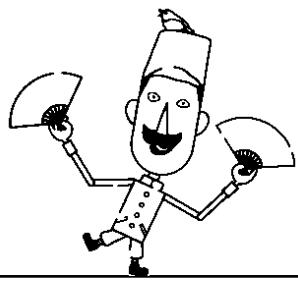


ぜひ見学に来てね～！



日本スキー発祥記念館

(1)



読んでナルホド！

上越の桜は
キレイに咲った



ひわ 日本スキー秘話

1911年1月12日

はつしょう

日本スキー発祥之地～上越市～



スキー訓練（左から5人目がレルヒ、後ろの山は南葉山）



スキー訓練（先頭がレルヒ）

1911年（明治44）1月12日、上越市で日本で初めてのスキー指導が行われました。指導したのは、オーストリア・ハンガリー帝国の軍人 レルヒ少佐（42歳）。指導を受けたのは、大日本帝国陸軍・長岡外史が師団長をつとめる第13師団歩兵第58連隊の将校たちでした。

◆高田の町と第13師団◆

スキーが日本に伝わる少し前、日本は大国・ロシアとの戦争に勝利しました。その後、さらに日本は軍隊の力を大きくするため、「師団★」を増やしました。

一方、江戸時代には越後一の城下町であった高田は、明治時代になると賑いを失いかけていました。そこで、高田の人たちは、師団をよんで活気づかせようとしました。この運動は見事に成功し、第13師団が高田に置かれて町が活気づくとともに、日本で初めてのスキーをよびこむことになったのです。

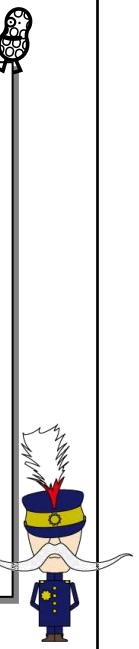
★師団…軍隊の一番大きな単位

メテレスキー！
(スキーをはきなさい！)

まめちしき ちょこっと豆知識

レルヒが最初にスキー指導をした場所はどこ？

もちろん金谷山だよ！と思うでしょうか？ 実は、最初のスキー指導は歩兵第58連隊の施設内、今の上越市立城西中学校の校庭で行われました。



私も楽しみな海



読んでナルホド！



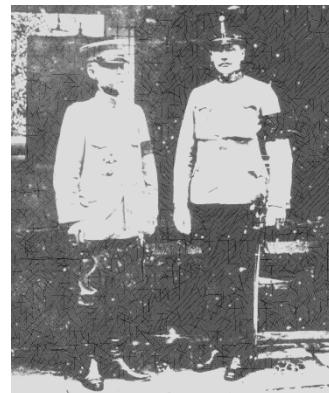
ひわ 日本スキー秘話

◆レルヒは上越に何をするために来たのでしょうか？◆

レルヒは、1911年（明治44）1月5日から翌年1月24日まで上越高田の第13師団にいました。1年ちょっとの間、上越にいたことになります。その後は、北海道の旭川に行きました。上越・旭川は、雪がたくさん降る寒いところです。

日本の軍隊の視察に来たレルヒ。レルヒのほかにも、各国から軍隊の視察にやってきた人たちがいましたが、大都市や外国との交流が盛んな太平洋側の地域を視察先に希望しました。では、レルヒは、なぜ上越・旭川に行くことになったのでしょうか？

その理由は、レルヒ自身の希望があったためです。スキーに特別な情熱をもっていたスキーヤー・レルヒは、2組のスキーを持って上越高田にやってきました。日本の雪を体験したい…という気持ちがあったのでしょうか。

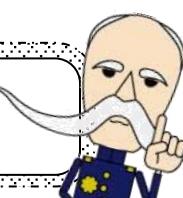


長岡外史とレルヒ

ひや～ほお～！



はっしょう　たてやくしゃ 日本スキー発祥の立役者 ～レルヒと長岡外史～



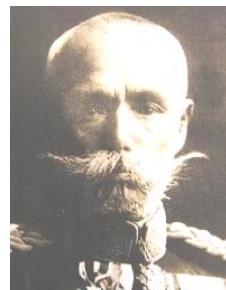
テオドール・エドラー・フォン・レルヒ
(1869~1945)

オーストリア・ハンガリー帝国の軍人で、軍事視察のために来日。リリエンフェルト式スキー術の創始者マティアス・ツダルスキーの弟子。上越に滞在中、スキー指導を行う。その指導は熱心で、親切・丁寧であったという。帰国後も上越の人々との交流が続いた。スキーだけでなくスケート・フェンシング・乗馬も得意。登山も好きで、米山・南葉山・妙高山にも登ったことがある。



ながおか　がいし
長岡外史
(1856~1933)

レルヒが来日した当時、高田に配置されていた陸軍第13師団の師団長。ヨーロッパ視察でスキーを知り、軍人だけでなく、日本国民の冬のスポーツとしてスキーを導入することが大切だと考えていた。レルヒの母国語（ドイツ語）を話す。スキー普及のほかに、日本の航空の発展にも力をそそぎ、民間航空の父といわれる。長いヒゲがトレードマーク。



(3)

レルヒが伝えた一本杖スキー術

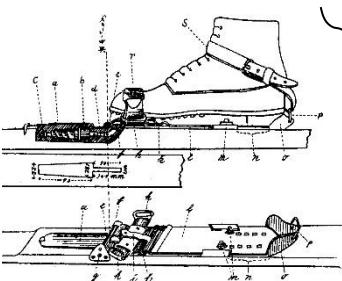
右の写真をよく見てください。そう、レルヒです！
みなさんが知っているスキーとは、どこか違うところ
がありませんか？

レルヒが伝えたスキーは、現在のように2本のストックを使いません。1本の杖を使う「リリエンフェルト式スキー術（オーストリア式スキー術・一本杖スキー術）」でした。リリエンフェルト式スキー術は、レルヒの先生であるマティアス・ツダルスキーがオーストリアのリリエンフェルト市で完成させました。

当時、世界のスキーはノルウェー式が主流でした。ノルウェー式は平らなところを歩くには最適でしたが、足をスキー板に固定する締具は簡単なものでした。このスキーで山などの急な斜面を滑ってみると…、そう、もちろん滑れません。

だから、ツダルスキーは急な斜面でも安全に滑ることができるようにリリエンフェルト式スキー術を考えたのです。

リリエンフェルト式スキー術の特徴

① 足をスキー板に固定する締具がしっかりとしている

激しく動いても、靴がスキー板から外れないように工夫されているんだね。

② ノルウェー式にくらべてスキー板が短い

③ 1本の長い杖

杖はバランスをとる程度



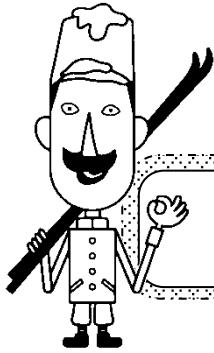
高田（金谷山）におけるレルヒ少佐
小熊和助氏撮影



マティアス・ツダルスキー

ちょこっと豆知識

オーストリアのリリエンフェルト市は、マティアス・ツダルスキーがスキー術を完成させたところで、現在、上越市の姉妹都市として交流を深めています。



レルヒが来たころの上越・高田

上越にスキーが伝えられた明治時代の終わりごろ、活気を失いかけていた高田の町は、陸軍第13師団が置かれたことでふたたび賑いをとりもどし、近代的な町へと生まれ変わろうとしていました。師団がやってくる前の1893年（明治26）には、全国に先がけて信越線が全線開通し、1907年（明治40）には高田・直江津・新井まで初めて電灯がともりました。

師団がやってくると、様々な商店が高田に店を構えるようになりました。朝市が立つようになり、映画館や写真館がつくれられ、洋風の建物も増えていきました。高田公園に桜の苗木が植えられたのも、このころのことです。

師団による積極的な働きかけもあり、たちまちスキーは民間の人たちにも受け入れられていきました。レルヒが来たその冬のうちに、現在の全日本スキー連盟のもととなる高田スキー倶楽部が結成され、スキー板の生産が始まり、スキー民謡などの歌謡曲やスキーせんべい・スキーあめ・スキーようかんなどの土産品もつくられるようになりました。

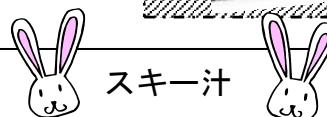
こうして、スキー産業は上越の一大産業となっていきました。



陸軍第13師団司令部（現在の上越教育大学附属中学校付近）



明治の終わりから大正時代にかけての新聞広告



冷えた体を温めるために考えられたもの。

作り方は豚汁とほぼ同じですが、レルヒが食べていたころは、ウサギ肉やさつまいもを使っていましたそうです。

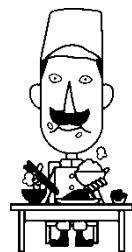
*スキー汁はレルヒ祭で食べることができます（ぶた肉使用）





もっと知りたい！

スキーの広まり



女性たちのスキー練習（左から 2人目が長岡外史師団長の妻）

レルヒが日本にスキー
術を伝えた当時、女性がス
ポーツをするなど考えら
れない時代でした。長岡外
史師団長は、女性がスキー
をすれば、国民にますます
広まると考え、自分や将校
たちの家族にもスキーの
練習をさせました。

「日本最初のスキー競技会」

1912年（明治45）1月21日、金谷山の近くで日本初のスキー競技会が行われました。レルヒが旭川にうつる3日前のことです。この競技会には、レルヒをはじめ50人あまりが参加し、長岡師団長をはじめ300人のお客様や多くの一般市民が応援にかけつけました。

当時の新聞は、選手が武者ぶるいしながらも、練習の成果を発揮した姿を伝えています。選手は滑ったあとに温かいスキー汁を食べながら、失敗談に花をさかせました。このスキー競技会の様子は、活動写真（昔の映画）によって全国に紹介され、上越が日本スキー発祥の地として知られるようになったのです。



スキー競技会に出場し、無事にゴールして、長岡師団長と握手する選手

ちょこっと 豆知識

レルヒは上越にいる1年間に「少佐」から「中佐」に位があがったんだよ。



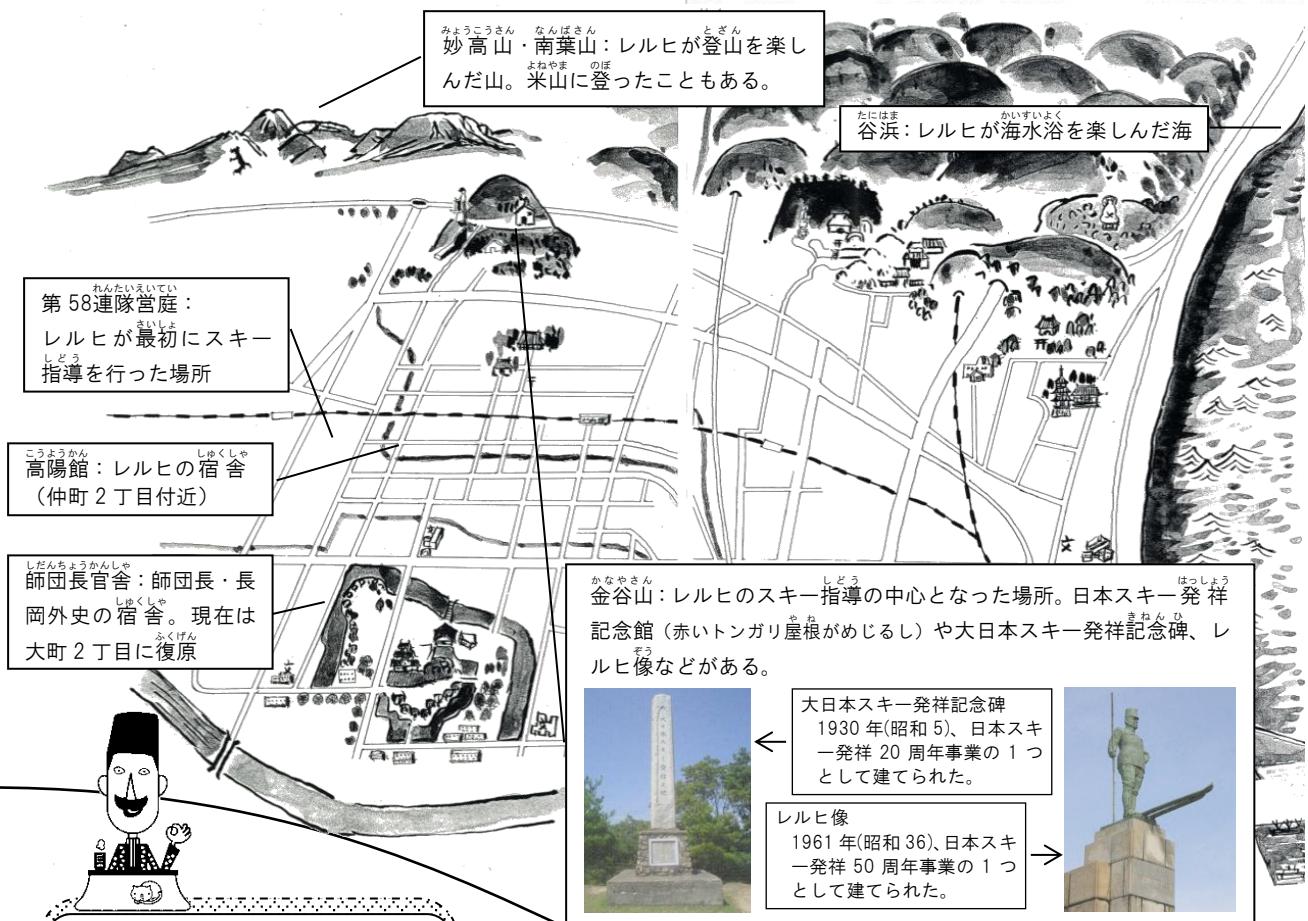
冬はスキーカー?



ちょこっと探検!



レルヒゆかりの地



レルヒ クイズ

Q1 日本にスキーが伝えられた日は、全日本スキー連盟をはじめとする関係団体によって「スキーの日」と定められています。レルヒがはじめて上越でスキー指導をした日は、1911年（明治44）の何月何日でしょうか？

- ①1月5日 ②1月12日 ③1月21日



Q2 立派なヒゲが印象的な長岡外史。山口県出身の長岡外史は飛行機の導入に積極的だったことも知られますが、外史のヒゲは飛行機の部品にたとえられることもありました。その部品とは？

- ①翼 ②エンジン ③プロペラ

Q3 レルヒは、夏に上越の海で海水浴もしました。海水パンツをはいたレルヒが写っている海水浴場はどこ？

- ①谷浜 ②直江津 ③鵜の浜

*こたえは、裏表紙のページの一番下です



海水浴を楽しむレルヒ（左から1人目）

日本スキー発祥と上越市

上越市ではレルヒの功績をたたえるため、さまざまなイベントを行っています。

レルヒ祭

レルヒの功績をたたえるお祭りで、毎年2月に開催しています。たいまつ滑降、一本杖スキーの披露や講習会、スノーモービル体験など、イベントがもりだくさんです。



上越市文化財「日本スキー関係資料」

レルヒによるスキー指導以来の関係資料、日本スキーのはじまりにおけるスキー用具やスキー製作の道具に関する資料など297点が2021年（令和3）に上越市の文化財に指定されました。

レルヒの会

レルヒ顕彰と一本杖スキーの継承のために活動している団体。毎冬、市内外のイベントで一本杖スキーを披露し、レルヒと上越市を情報発信しています。

日本スキー発祥記念館



レルヒがスキーを教えた金谷山にあり、日本スキー発祥80周年記念事業として、1992年（平成4）に建てられました。スキーの歴史やスキー用具の変遷など、スキーに関するさまざまなことが分かります。また、レルヒの部屋を再現した展示室には、レルヒ愛用の品や直筆の絵画などを展示しています。

スキーの日（1月12日）とレルヒ祭は入館無料！

住所：上越市大貫2-18-37 / ☎ 025-523-3766

開館時間：4月～10月…午前9時～午後4時30分、11月～3月…午前10時～午後4時

休館日：月曜日（月曜日が休日のときは翌日）、休日の翌日、年末年始（12/29～1/3）

観覧料：一般 460円（310円）・小中高生 160円（100円）※（）内は20人以上の団体料金

レルヒクイズのこたえ：Q1…② Q2…③ Q3…①

発行：日本スキー発祥記念館